

# 第6回

# 国際ボランティアワークキャンプ

6th International Volunteer Work Camp

# in ASO



# Teenagers!!

# Contents

- 02 目的／概要
- 03 スケジュール
- 04 オープニング 基調講演  
アイスブレイク
- 05 第1分科会（福祉）  
第2分科会（環境）
- 06 第3分科会（食）  
第4分科会（ボランティア）
- 07 第5分科会（伝統文化）  
第6分科会（国際交流）
- 08 第7分科会（多文化共生）  
全体報告会
- 09 留学生から
- 10 全体交流会  
ワークショップ
- 11 アンケート  
Smile Station



# 目的・概要

## 目的

### 高校生、大学生等、「若い力」の「生きる力」を育む

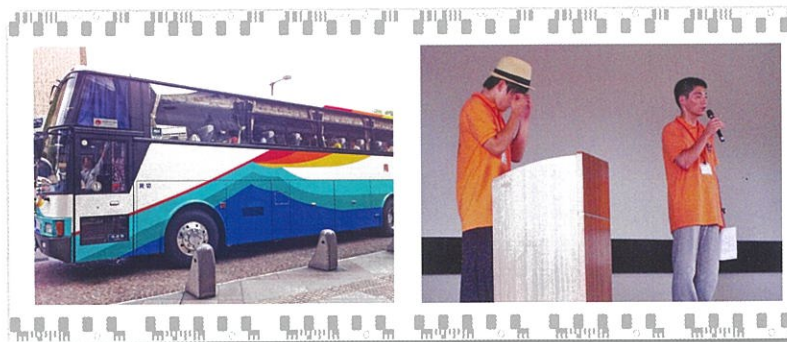
21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々の地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営するワークキャンプを阿蘇の大自然の中、2泊3日の宿泊型で計画・実施します。

第6回となる今回（2011年）の国際ボランティアワークキャンプ（ボラキャン）では、「はじける！Teenagers!!」をテーマに、参加した全員が元気いっぱいを楽しもう、そして、自分の「夢」（社会における自己の存在とは…）を見つけ、それを「かたち」にしていこう！という想いが込められています。

# スケジュール

## 8月7日（日）

- 9:30 熊本市国際交流会館 出発（専用貸切バス）
- 11:20 国立阿蘇青少年交流の家 到着
- 12:00～13:00 昼食
- 13:00 開会式
- 13:20 基調講演
- 14:30 アイスブレイク「世界の挨拶」「nameチェーン」
- 15:40 分科会
- 17:45～19:00 夕食・入浴
- 19:30～21:30 全体交流会
- 21:30～22:00 Smile Time
- 22:30 就寝



## ■ 概 略

一般参加者として高校生104名、留学生27名、サポーターとして日本人大学生等16名が参加しました。分科会活動等様々なプログラムをとおして交流、お互いに理解、「想い」を共有しながら、日ごろから出来るボランティア活動を考えることができました。この体験は、きっと、実社会の中で高校生それぞれの具体的な取り組みとして実を結ぶことでしょう。

- ・実施年月日 2011年8月7日(日)～9日(火) 2泊3日
- ・実施会場 国立阿蘇青少年交流の家  
(〒869-2692 熊本県阿蘇市一の宮宮地6029-1)
- ・参加者 149名(高校生104名、留学生27名、実行委員18名)
- ・主催 国際ボランティアワークキャンプ実行委員会  
(高校生の構成メンバー及び構成団体については、最終ページに記載しています。)
- ・後援 熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、熊本日日新聞社

### ワークショップ協力者(敬称略)

**国際協力:** 須藤 美代、橋村 隆介(熊本ユネスコ協会)、伊藤 友美・木下 俊和(国際協力機構九州国際センター)、田中 康平(フェアトレードくまもと)、宮田 喜代志(日本フェアトレード委員会)、岩坂 省吾(フリーザチルドレン)、小川 博(ソルト・パヤタス)、岩谷 美代子・竹村 朋子(外国から来た子ども支援ネット)、村山 知隆・鶴岡 達也(PRENGO)、川原 理奈・小野 敦美(HABITAT)

**環 境:** 澤 克彦・林 秀美(九州パートナーシップオフィス)、市原 啓吉(町古閑牧野組合組合長)

**社会貢献:** 池部 祐希(近代経営研究所)、坂口 裕俊・永松 達・中村 貴秀・浦上 仁史(熊本いいくに会)

**アドバイザー:** 興梠 寛(昭和女子大学・日本ボランティア学習協会)

**事務局:** 八木 浩光・勝谷 知美・下田 隆文・中川 真理恵(熊本市国際交流振興事業団)

## 8月8日(月)

- 6:00 起床
- 6:20 清掃
- 6:45 朝の集い
- 7:00 朝食  
朝の散歩(希望者のみ)
- 9:00～17:00 分科会(続き)
- 17:00～19:00 夕食・入浴
- 19:00～21:00 ワークショップ  
(いろんな活動家と出会い話しよう!)
- 21:00～22:00 Smile Time
- 22:30 就寝

## 8月9日(火)

- 6:00 起床
- 6:20 清掃
- 6:45 朝の集い
- 7:00 朝食
- 9:00～11:00 報告会
- 11:15～11:45 閉会式
- 12:15 国立阿蘇青少年交流の家 出発(専用貸切バス)
- 13:00～14:00 昼食(阿蘇草千里にてお弁当)
- 14:00 阿蘇 出発(専用貸切バス)
- 15:30 熊本市国際交流会館到着 (解散)



## ボランティアライフのすすめ

報告者：岩木 陽平（熊本高校）

「第6回国際ボランティアワークキャンプ in ASO」を開催するにあたり、興梠 寛先生（日本ボランティア学習協会代表理事、昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンター長）に、「ボランティアライフのすすめ」というタイトルで基調講演をしていただきました。ボランティアとは何か、ボランティアに本当に必要なことは何かなどについて話していただき、特に「ボランティアとはボランティアする人とされる人とのつながりの中で成り立つ」ということが主張されていたように思います。

1995年1月17日には阪神・淡路大震災がそして2011年3月11日には東日本大震災がこの日本列島で起こり、この十数年で日本でのボランティアに対する意識が高まっています。基調講演でも取り上げられていましたが、日本には昔から「お互い様の文化」が強くあります。しかし、近年日本では疎遠や孤独死、過疎化による限界集落などの問題が出てきています。これからの時代、ボランティアが今以上に重要になりグローバルなものになっていくことだと思います。そんな時勢にこのような基調講演を聞くことができよかったです。



## 「世界の挨拶」と「name チェーン」

報告者：村川 光成（文徳高校）

開会式後、参加者同士の心の距離が少しでも近づくようにとアイスブレイクを行いました。ファシリテーターは JICA 熊本デスクの木下俊和さん。参加者全員で楽しむことができ、笑顔が絶えない時間だったと思います。

内容としては、「世界の挨拶」と「name チェーン」の二つでした。

世界ではどんな言葉が一番使われているのだろうかという問題に対して、それぞれが国名・挨拶が書かれたカードを持ち、同じ国の人たちを探すというものでした。ただし、探す手段は「挨拶」のみ。割り当てられた国の挨拶だけを使って探すので少し、発音し辛い言葉もあり戸惑う人もいましたが、全員が参



加でき、楽しんでいた印象があります。

「name チェーン」はただ名前順に並ぶのみですが、お互いの名前を聞きあうので、これをきっかけに、「同じ名前だね」、「兄弟と名前一緒!!」といった共通点から仲良くなれるゲームでした。

アイスブレイクが終わり、会場を出て分科会へ向かう参加者の笑顔を見た時は、ほっとしたのを覚えています。アイスブレイクは大成功でしたし、分科会を行うにあたり、良いスタートダッシュを切れたのではないかと思います。そして何より楽しめたのが良かったです。



報告者：平野 あずみ (文徳高校)

第一分科会「福祉」は、「子供が好き」「障がいのある子供達について知りたい」という理由で、「障がい者に対しての心の壁をなくそう!」をテーマで開催しました。

1日目はアイスブレイクとして「名前ビンゴ」をしました。3×3の9マスにお互い自己紹介をした相手の名前を入れてビンゴゲームのように遊びました。メンバーのなかで1対1で話すこともでき、盛り上がったので、とてもいい雰囲気を作ることができました。

2日目は午前中に事前学習として、障がい者についての講話



を聞きました。その後、障がいのある子供達と実際にふれあおう!ということで「おひさまクラブ」の子供達と一緒に遊びました。始めは、どう接すればいいかわからず、少し戸惑いでしたが、一緒に遊んでいるうちに、打ち解けることができました。その後は、事前学習と実際にふれあってどうだったかなどについてメンバーで話し合いました。

3日目の報告会では2日目話し合ったことや、実際にふれあった感想などを発表しました。

3日間を通して、色々なことを学べました。実際にふれあったことは、私にとって障がい者に対するイメージを大きく変えました。

私が皆さんに何か伝えるとするなら、「まず障がい者について知ること」「実際に接すること」この2つです。そして、少しでも障がい者に対しての心の壁がなくなっていけばいいと思います。

報告者：岩木 陽平 (熊本高校)



私たちの住む熊本市は豊かな地下水のおかげで「日本一の地下水都市」と呼ばれています。参加者の人に水に「触れる・感じる」機会を設けて、私たちが水をどう賢く使い、どう共に生きていくかということを考えてもらえればと、この分科会を立ち上げました。

分科会では班に別れて4種類の水を飲んでもらい、それについて感想を言ってもらったあと、水の名前と違いについて話をし、軟水と硬水の違いについて学びました。

2日目は、九州環境パートナーシップオフィスの澤さんから、話しを聞き、「くまもと水検定」の問題に挑戦して、クイズ形式で熊本の水について学びました。

事前学習のあとは阿蘇神社周辺にある「水基 (地下水を引い

て半永久的に出続ける井戸のようなもの)」を見に行き、その水でトマトを冷やしたり、道路に打ち水して涼しくしたりと生活の中に溶け込んでいる様子がわかりました。その後、私たちにできるアクションプランについて考えました。

第2分科会のアクションプランは、

1. 水をうまく使った夏を涼しく乗り切る料理を考えてそれをインターネットなどで共有する「夏メニューを食べると涼しくなる」
  2. 除湿機の水やお風呂の残りの水を家の周りにまいて気温を下げる「打ち水大作戦」
  3. 熊本から外国へ「熊本の水」をPR・販売していく「君が使っているのは僕の飲み水」
  4. 「コップ3杯以内で歯磨きしよう」です。
- これを元に今後活動していけたらと思います。



報告者：村川 光成 (文徳高校)

第3分科会では、先進国では余った食べ物が捨てられている中、世界には食べ物が不足しているところがあります。この現実を知ってもらい、「食」を通じて世界の貧困を知り、自分たちは何ができるか、と自分の考える理想の世界とはどういったものなのか、を考えてもらいました。

1日目は、自己紹介と簡単なゲームで分科会内の雰囲気や和らげ、2日間の流れを説明しました。2日目は、アフリカのある子供の1日の生活について考え、水汲みが1日の始まりであることを確認し、水汲み体験をしました。その後、チュニジアの家庭料理を作りました。午後にはクイズ形式で「食」と社会環境と貧困のつながりを知ってもらい、世界全体の富のバランスをお菓子を使って実感してもらいました。

そして青年海外協力隊OGの方から、派遣先だったマダガスカルでの生活を通して、貧富の差と幸福度について話を聞きました。



その後、班に別れ、1週間以内、1年、10年、50年以内を範囲として、自分、家族、学校・会社、地域、国、世界でできるアクションプランの表をつくり、またそれぞれの理想とする世界を1日目につくった人の形をした紙に書いて、まとめました。

私たちにできることとして、まず“食生活の改善”と“現状を周りに知ってもらう”という意見が出ました。今後は、その次のステップとして、学校で募金をする等、範囲を広げていくことができるか、と考えました。

## ボランティア ~高校生だからこそできること in 身近なボランティア

報告者：佐藤 里佳、片山 亜希 (熊本北高校)

この分科会ではボランティア活動に興味を持ってもらい、そしてボランティアをしたいけど、情報がないという人には、情報を提供・交換できる場にできたらいいなと思い、ボランティアは身近なものであることを考えてもらい、高校生でも出来るものがたくさんあることを知ってもらうための取り組みを行いました。

1日目は、阿蘇青少年交流の家施設内のトイレ掃除をしました。いきなりのトイレ掃除に留学生も高校生も戸惑ったと思います。しかし「熊本いいくに会」の方々の指導の下、真剣な顔で取り組んでくれました。最後に1人1枚、カードに感想を書いてもらい終了しました。

2日目は、この分科会の流れを説明し、グループに分かれて、昨日のトイレ掃除の感想をもとに、振り返りをしてもらいました。その後、グループで「自分たちの身近な所には、どんな



なボランティアがあるか」を話し合ってもらいました。各々にボランティアの例を出して、その理由も考えてもらいました。最後には、グループごとに話し合った内容を発表して、共有しました。

午後からはオブザーバーである「熊本いいくに会」の方から、毎月の活動、毎年の活動や、ボランティアをして変わったことなどについてのお話を聞きました。

最後に、アクションプランとして企画している“みずあかり”についてのプレゼンテーションをしていただき、そして、10月にある“みずあかり”のボランティア募集だけでなく、それ以外のボランティアにも関わられるように、参加者同志のメーリングリストを作りました。



## 伝統文化

報告者：山下 史令 (御船高校)

日常生活の中にある、様々な伝統文化を学びたくて、そして、参加者には伝統とは何か、文化とは何か、これからできることは何かを考えてもらう分科会を作ることになりました。

1日目は、班ごとでの自己紹介、参加者に分科会の趣旨説明をして、翌日のスケジュールを確認して終了しました。

2日目の事前学習では「伝統・文化財とは何か」を班で話し合い、発表しました。「文化財とは生活の中で生まれたもの」であり、「伝統とは昔から今に受け継がれたもの」という認識ができました。午前中の後半は、波野小学校で神楽の保存活動

をしている児童とワークショップを行いました。DVD で神楽の紹介を観た後、参加者にも実際に体験してもらいました。実際に舞ってみると神楽の細かい動きに苦戦していましたが、留学生も高校生も楽しめたようでした。その後の質疑の時間では児童から参加者に対して質問も出て、盛り上がりました。

午後からは県庁文化課の方より伝統文化とは何か、文化財とは、伝統文化の主な働きと役割やそれらを継承することへの課題について話しをしていただきました。現代においては伝統文化の伝え方が大きな課題になっているそうです。伝統文化を守る

ためにしきたりを重視しては今の時代に合わないのが、一部変更せざるを得ないが、元の形を記録保存することも重要であると言われました。

まとめでは、それをふまえて今後、自分たちにできることをみんなで考えました。



## 国際交流 ~多国籍若者交流プロジェクト~

報告者：黨 翠 (熊本高校)

第6分科会では Skype を通じて世界の友人とコミュニケーションを取り、自分たちの視野を広めよう！と2日間の活動を行いました。

始めに、インドの高校生達と、日本を紹介したり学校の話したりしました。次に、国際交流とはなんだろう？というワークで「国際交流には何が大切だろうか」というテーマをグループで話し合いました。最終的に「積極的な気持ち」が大切だ、という結論が出ました。その後の「国際交流 YES or NO」ワークでは「楽しくなければ国際交流ではない」「国際交流には自分が英語を学ぶことが必要だ」「お互いの文化を学ぶことが重要だ」など質問をして、YES、NO に分かれました。正解のないワークでしたが、自分たちの中で答えを見つけることができました。

Skype コミュニケーションでは、インドネシア、韓国の高校生と英語でのコミュニケーションでは苦戦しましたが、お互いの国のこと、学校生活などの話して盛り上がることができました。

最後に、アクションプランを考え、Smile Station で行われている Skype 交流を提案しました。

言語の壁は厚かったが、それを乗り越えることで、世界中のたくさんの人達と楽しいコミュニケーションがとれる、というまとめをしました。いま地球上で起こっている様々な問題に対処するには、世界中の人々と協力して解決していくことが必要不可欠です。この分科会で未来の地球の縮図を作り、国際的な視野を広げられたことがみなさんの将来に役に立つことを祈っています。



## 多文化共生

報告者：付 暁蕾、李 雪君 (東稜高校)、深川ゆかり (済々覺高校)

私たち (第7分科会実行委員) は何もわからないまま外国から日本に来て、日本の学校で勉強してきました。そして、いろいろな壁にぶつかりました。具体的には3つの壁、「言葉の壁」「文化の壁」「心の壁」です。この3つの壁はつながっていますが、「心の壁」を取り除くことが一番難しいです。「心の壁」は「言葉の壁」「文化の壁」がなくなった後も、なぜか残る壁です。私たちがこれまで抱えてきた思いや経験を日本人の生徒の皆さんに伝えたいのです。そして周りに私たちのような人がいれば、国籍とか関係なく友達になって理解してほしいという思いや多文化共生の社会を作りたいという気持ちからこの分科会を立ち上げました。

1日目には、分科会の全体の流れとこの分科会を立ち上げた目的を説明し、日本にいる外国人についてのクイズの答え合わせをし、自己紹介とアイスブレイクをしました。アイスブレイクでは、同じ漢字ですが、日本語と中国語で意味が違う単語を線で結ぶゲームや、指を使って中国語で1から10までの数字を数えるゲームをしました。

2日目の午前は、最初に二人組で、言葉を使わずに表現するジェスチャーゲームをしました。そして中国語とタガログ語での授業をしました。日本語を一切使わず外国語だけの授業だったので、日本語が分からないまま日本の学校に入って勉強する外国人生徒の気持ちを体験できました。また参加者の一人に中国の学校に転校してきた生徒の体験してもらい中国と日本の間にある文化や習慣や学校生活などについての違い「文化の壁」についても紹介しました。

午後は、寸劇や外国語を使ったゲームをした後、在日外国人生徒が書いた自分が体験したことについての作文を読んで、「心の壁」や「多文化共生」につ



いていろいろ話し合いました。最後に、2日間のまとめをして、3日目の報告会でそれを発表しました。

2日間の活動を通して参加したみんなは異文化の中で困っていた私たちの気持ちを理解してくれました。最後の話し合いでは、「今まで自分たちが思っていた異文化と本当の異文化は違う。メディアの情報で決めつけてはいけない。実際に話し合いが大切だ。」などいろいろな意見を出してくれました。

参加してくれたみんなは、異文化という環境を実体験して、外国から来た私たちの気持ちを理解してくれました。

しかし、現実の世界では、私たちの周りの人で私たちのことを理解してくれる人はとても少ないです。相手を理解しようとする姿勢や一生懸命伝えようとするのが大切だと思います。そして、このようにお互いが理解することができる機会がもっと増えるといいなと思います。

## 全体報告会

報告者：緒方 彩乃 (熊本高校)

全体報告会は3日目のメイン。今年はポスターセッション方式の報告会を取り入れ、グループに分かれてローテーションで発表役・聞き手に回るという形をとり、一般参加者も含め分科会のメンバー全員が発表できるようにしました。

ECメンバーはもちろん、一般参加者の皆さんも真剣に聞いたり、質疑に答えたりと、今回のボラキャンの活動が充実したもになったことが伝わって来ました。

発表の後、分科会ごとに集まって他の分科会の活動で聞いてきたことを報告し合いました。ここでも積極的に意見の交換が行われ、より一層考えを深めることが出来ました。

アンケートにも、「今回の報告会で考えが深まった」という

参加者の意見がたくさんあり、大成功だったと思います。

そして、閉会式。分科会の代表がみんなの前で今回のボラキャンの感想を話しました。発表者のほとんどがECの中、一般の参加者が発表する分科会もあり、終始和やかな雰囲気でした。

そのあと、恒例となったボラキャンイメージソング「キセキの旅」を合唱しました。ECが前に出て歌う中、一般参加者も真剣に歌詩を噛み締めていました。

全体報告会を通して一人一人の考えが深まり、ボラキャンの活動をより印象づけることができたので良かったです。





## 留学生から

Fan Bo (中国・APU)・第3分科会に参加

It was really good experience and memory for me. In our group, we mainly talked about African food. The experiences of cooking and carrying water made us know how tired the African children are. Furthermore, it made me realize how happy we are. I sincerely would like to be a volunteer in African.

What's more, Aso is a really good place. The living and eating conditions were very good. I hope I can attend the camp next year.

PERERA Male Tantrige Buddhini Priyanga (スリランカ・APU)・第6分科会に参加

The work camp we had at Aso was indeed a wonderful experience. Even though it was quite short and we did not get the chance to talk to most of the participants, I think they had a great time and the games we played all together were really fun. We had to work as a group and come up with a group opinion, which I believe was a great experience. I really wish we had more time to talk about our culture and where we come from, so that the time spent would have given us some cross-cultural exposure at the same time. I believe its important, because the high school students will end up in such an environment in a few years once they enter universities, or soon after graduating from university. The better they are able to understand the differences in the world, the better citizens they will become. I sincerely hope that we will be able to participate next time too and spend quality time together. I learned a lot and hope the students did too.

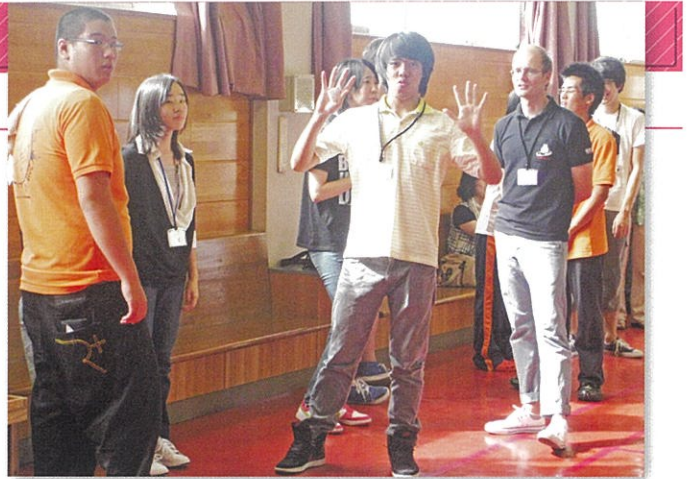
Thank you very much for the wonderful experience .



Claudya (インドネシア・APU)・第6分科会に参加

The camp in Aso was indeed a great experience. First, I would like to review about the facility itself. Second, I will write about the people there. Third, I will express my opinion regarding the event itself.

First, concerning the facility, it was indeed a beautiful building, full of greenery. I loved the cafeteria. The food was wonderful and delicious yet healthy. I really felt I have regained my health because of the food during the camp. The water was delicious as



well. The bedroom was a bit of a problem, but in summary, I think the place is wonderful.

Second, about the people, I think the committees and the leaders were generally nice, but they tend to be exclusive. For example, during the lunch or the activity, the leaders and committees tended to group among themselves rather than mixing with the participants. The high school students were cheerful and nice. We really had many long talks over many things.

Third, about the event itself, I personally really learned a lot. I was in the skype group. Honestly, it was a fun group. Getting in touch with unknown people living in other countries using skype was really a wonderful experience. I really hope through this activity, more high school students will be encouraged to use skype and have friends all over the world.

Overall, I loved this camp and I would like to join again if there is a chance. Thank you for this great opportunity.



## 全体交流

### 「4コートバレー」

報告者：陶山 里紗（専大玉名高校）

国際ボランティアワークキャンプの1日目の夜、スポーツ交流として「4コートバレー」を行いました。4コートバレーとはネットを十字に張り、4つのコートに分かれて行う変則的なバレーボールです。分科会毎のチームに分かれて2コートで予選リーグを行い、その後、それぞれのコートの成績によりチームを入れ替え、総合順位を決めました。

1日目の夜ということもあり、始めは分科会内のメンバー同士でもまだまだ馴染めていない雰囲気がありましたが、ゲームが始まるとチーム内でお互いに声を掛け合ったり、コートの外からチームメイトを応援したりと、とても盛り上がっていました。4コートバレーを体験したことがあるという方は少なかったのではないかと思います。誰もが楽しめたゲームになったと感じました。

それまで一度も話したことがなかった他校の参加者や、留学



生の方と、様々な言葉を交わし、交流を深める時間を過ごせたと思います。

このスポーツ交流で深めた親睦を2日目、3日目の活動につなぐことが出来たのではないのでしょうか。



## ワークショップ

報告者：三嶋 加奈子（専大玉名高校）

ボランティアワークキャンプの2日目の夜、ワークショップを行いました。

今回のワークショップには4つのグループ（国際協力、環境、多文化共生、社会貢献）から14団体の方々をお呼びしました。開始をした途端、高校生の皆さんは自分の興味のあるブースに向かい、積極的に質問したり、活動家のお話しに一生懸命耳を傾けている姿が多く見られました。2時間という短い時間ではありましたが、高校生一人一人にとって、とても有意義な時間になったと思います。実際に活動をされている方々のお話を

聞くことで、自分の知らない世界を知ることができました。

今回のワークショップを通して、ボランティアへの意識も変わり、またこれからボランティアをするきっかけ作りにもなったかと思います。この体験を活かしてたくさんのことに興味を持ち、積極的に行動に移してくれると嬉しく思います。

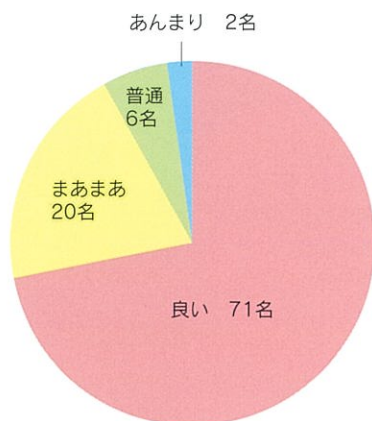
最後に、ワークショップに参加して下さった皆さん、お手伝いをして下さった事務局の方々、本当にお世話になりました。

ありがとうございました。



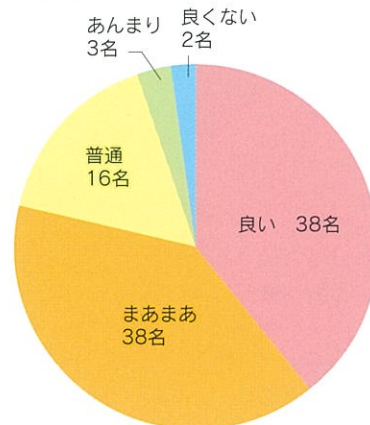
報告者：中川 倭（熊本西高校）

## 実行委員の印象



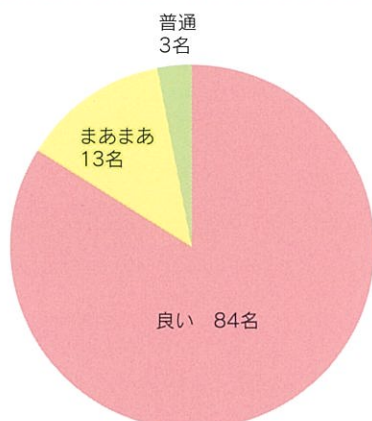
- ・親切でフレンドリーだった。
- ・頑張って率先して行動していた。
- ・同じ高校生として尊敬できた。

## オープニング



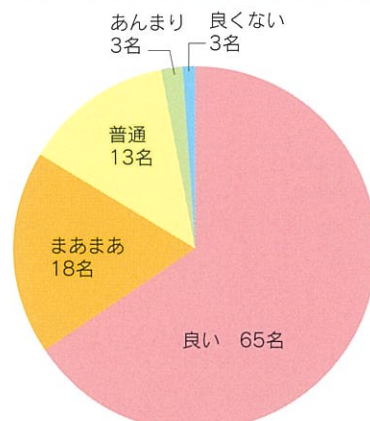
- ・（基調講演は）ボラキャンの意識付けになった。
- ・内容が難しかった。
- ・知らない人と話せて良かった。

## 交流会



- ・知らないスポーツだったけど楽しかった。
- ・分科会でのまとまりができた。
- ・外国語での応援もできて楽しかった。

## ワークショップ



- ・いろんな活動を知ることが出来て良かった。
- ・話しが聞けないブースもあった。
- ・今後の参考になった。



# ★Smile Station★

Smile station とは第四回ボランティアワークキャンプから誕生した、熊本中の高校生が主体となってボランティア情報を交換し、実際にボランティア活動をしていく場所です。

毎月第一土曜日、国際交流会館でミーティングが行われています。楽しい仲間たちと一緒にほかではできない貴重な経験をすることができます。活動として、国際ボランティアワークキャンプの企画・実行・参加、募金やゴミ拾いを始め、国際交流会館や街中で行われるイベントのボランティア参加やドイツ・インドとの Skype 交流などを行っています。その他にも阿蘇青少年交流の家で行われるヒゴタイ交流プロジェクトの企画・参加や、高校生による、まちなか案内図作成プロジェクト「上通りなう」に参加しました。

Smile station は、老若男女国籍問わずたくさんの人と出会える場所です。ボランティアをしたい、という人はもちろん、もっとたくさんの友だちを作りたいひとや、自分を変えたい、そんな人たちもどんどん募集しています。ぜひ smile station に足を運んでみて下さい！（ブログ <http://smilestation.blogzine.jp/blog/>）

# 実行委員よりメッセージ

本当に充実した日々でした。  
ボラキャンでECメンバーや  
たくさんの人に会えたことに  
感謝です!!  
専大玉名高校 三嶋加奈子

今回のボラキャンを  
成功させられたのは  
参加者の皆さんのおかげです。  
今後もボラキャンが  
永遠に続きますように!  
熊本高校 黨 翠

今回のボラキャンは1日しか  
居れませんでした  
親友が出来たので良かったです。  
宇土高校 西田 淳基

1年間、ECをしてきて  
本当に大変だったけど  
楽しかったです。  
いい経験になりました。  
熊本北高校 佐藤 里佳

わたしは、ボラキャンに  
実行委員として参加し、貴重な  
経験をさせていただきました。  
今回のボラキャンで学び得たことを、  
今後の生活に活かして  
いけたらと思います。  
専大玉名高校 陶山 里紗

今回のボラキャンが参加者の方にとって  
刺激になっていればこれ幸いです。  
本当にありがとうございました。  
熊本高校 岩木 陽平

初めて実行委員として参加して  
とてもいい経験ができたと思います。  
何年経っても今回のことを  
思い出して、とてもいい思い出だと思います。  
東稜高校 付 暁蕾

初めて実行委員として参加し、  
一生懸命自分の気持ちや  
今までの経験を伝えようとした。  
そして、みんなもわかってくれたので、  
相手に伝えようとする姿勢は  
とても大切だと思った。  
東稜高校 李 雪君

充実した3日間でした!  
有難うございました。  
熊本高校 緒方 彩乃

## 実行委員の活動



2010年9月 ボラキャンEC会議



2011年3月 春合宿



2011年7月 APU訪問

## 第6回 国際ボランティアワークキャンプ実行委員会高校生実行委員メンバー

西田 淳基 * 宇土高校	高木 結衣 * 熊本高校	三嶋加奈子 * 専大玉名高校
片山 亜希 * 熊本北高校	千田麻由子 * 熊本高校	藤本 大樹 * 千原台高校
佐藤 里佳 * 熊本北高校	川端 航平 * 熊本西高校	付 暁蕾 * 東稜高校
南家 諒太 * 熊本北高校	中川 倭 * 熊本西高校	李 雪君 * 東稜高校
市原 茜 * 熊本高校	上村祐一郎 * 真和高校	平野 有純 * 文徳高校
岩木 陽平 * 熊本高校 (実行委員長)	豊田かなえ * 真和高校	村川 光成 * 文徳高校
緒方 彩乃 * 熊本高校	深川ゆかり * 済々黌高校	山下 史令 * 御船高校
甲斐 寛之 * 熊本高校 (副実行委員長)	陶山 里紗 * 専大玉名高校	安藤みこと
黨 翠 * 熊本高校 (副実行委員長)	早川 未来 * 専大玉名高校	

### ■構成団体 (順不同)

- ・株式会社近代経営研究所
- ・熊本ユネスコ協会
- ・熊本留学生交流推進会議
- ・財団法人熊本市国際交流振興事業団
- ・株式会社日本リモナイト

### ■協賛・協力団体 (順不同)

- ・(株)秀宅
- ・崇城大学
- ・立命館アジア太平洋大学 (APU)
- ・独立行政法人国際協力機構九州国際センター

### ■後援

- ・熊本県教育委員会
- ・熊本市教育委員会
- ・熊本日日新聞社

### ■事務局

財団法人熊本市国際交流振興事業団  
熊本市花畑町4番8号熊本市国際交流会館 TEL : 096-359-2121

子どもゆめ基金助成活動